

# VoIPの障害調査・接続検証に朗報 ログ解析を自動化する「Call Tracer」

「VoIPネットワーク/システムの障害調査をもっと簡便に行いたい」 SI業者やIP電話事業者、機器メーカーの現場担当者から漏れ聞こえてくるこうした要望に、アルチザネットワークスが応えた。2004年2月に発売した「Artiza VoIP Call Tracer」は、多種多様な調査範囲設定と自由に定義できるチェックパターンが現場の「真のニーズ」を捉えたポイントになっている。

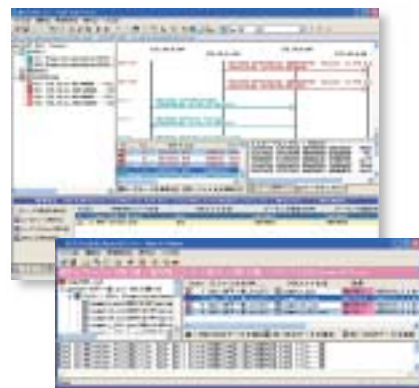
「Artiza VoIP Call Tracer」は、VoIP通信の障害調査等において、アナライザーで収集したキャプチャファイル（ログデータ）から、指定条件に合致するVoIP呼（SIP、MGCP、RTP、RTCP）を抽出し、シーケンス表示や信号送受パターン、信号内容のチェックが行えるというソフトウェアツール。これを使えば、ログデータを人手で解析し障害要因を追跡していた作業が、PC上で自動的に行えるようになる。

Artiza VoIP Call Tracerの機能は、一定の時間帯・ネットワークの区間・IPアドレス、ポート番号、プロトコル、電話番号等々での調査範囲・対象の絞り込みおよび整理（フィルタ&マージ）、絞り込んだデータからの異常呼の抽出

（シーケンスチェック）、正常に動作しているログとの差分の確認（メッセージチェック）の3つに集約される。

キャプチャファイルは、同社の「Artiza VoIP Analyzer」および遠隔監視ツール「Artiza VoIP Software Probe」の独自ファイル形式（AVM/AVZ）だけでなく、標準のSnoop形式でもコンバータを使うことでチェックが可能。最大128のキャプチャファイルを同時に扱い、複数拠点にまたがるシーケンスを表示できるため、複数サーバーをまたいだ動作も簡単に検証できる。

一番のポイントは、チェックしたいシーケンスやメッセージのパターンおよびパラメータを利用者側で自由に定義し、登録・保存できる点にある。例えば、製品



「Artiza VoIP Call Tracer」のメイン画面とチェック結果表示画面

ごとの「クセ」が強いSIP通信で、過去の調査内容をチェックパターンとして登録していくことで、障害対策のノウハウが蓄積されるわけだ。

Artiza VoIP Call Tracerの用途としては、まずキャリア、企業のVoIPネットワークにおける障害調査が考えられる。実際、SI会社等に紹介すると、特に現場関係者は必ずといってよいほど「導入したい」という意向を示すという。

また、IP電話事業者やVoIP機器/プロトコルメーカー等の端末接続検証でも有効活用できる。独自仕様の部分も自由に定義できるチェックパターンでカバー可能だ。

価格は120万円。ただし、アルチザネットワークスのアナライザー製品ユーザー（既存・新規）には特別価格として80万円を提供している。

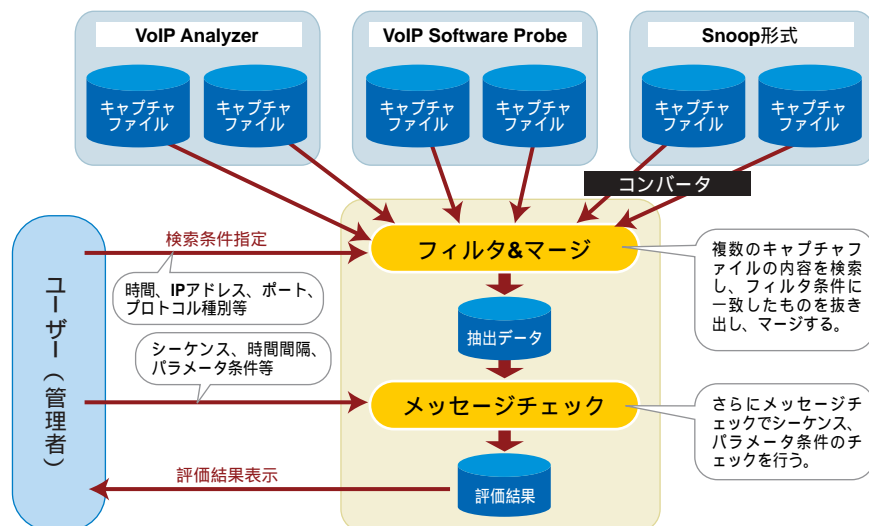
お問い合わせ先

**株式会社アルチザネットワークス**  
プロダクト統括本部

TEL 042-529-3494

E-Mail voip@artiza.co.jp

URL <http://www.artiza.co.jp/>



「VoIP Call Tracer」の動作イメージ